

ごみ減量市民会議 3年間の活動まとめへの意見

◎いつもお世話になっていますが、遅くなりましたが「ごみ減量市民会議3年間のまとめ」について私見をお伝えします。

1. 全体としては詳細にまとめていただき感謝いたします
2. 3年間の活動のまとめで4ページ最後の文章で「・・・有効ですが3Rの考え方・・・」とありますが少し飛躍しすぎではないでしょうか。
キエーロは生ゴミ削減のツールとしては有効でありさらに普及に努める。としたうえで
さらなる生ゴミ削減のため今後は「3R・・・」とした方がよいと思います。
3. 全体として経過報告と結果報告になっていますが、市民会議の活動についての総括が必要と感じます
 - ・当面の目標マイナス25%達成できなかったのはなぜか
活動のスタート時点（H28）と比較しゴミの量は全く変化していません
これらの事実を活動結果とどのように関連づけるのか
 - ・メンバーの活動については効率よく活動できたのか
 - ・啓発活動としては市民に浸透できたのか、もっとやることはなかったのか
4. 次年度の活動に向けた提案等。

以上です

よろしく願いいたします。

◎ 小生は、過去の作業をどう評価するかには興味がありませんが、生ごみを減らさなければ今後のごみ削減はおぼつかないとの結論を得たことは評価します。

この「生ごみを減らす」というターゲットに市民会議や環境保全課はどう対応して行くのか？従来通りのキエーロでの家庭での削減を目指すとか水切り運動を行うとかでは減少しても数%で、このまま継続して行くことには「やっているよ」とのポーズを示している様にしか見えないと思います。

小生としては、このターゲットに真っ向から戦いを挑むような技術の探索が必要で、その覚悟を環境保全課は持って欲しいと思います。

焼却炉を使用せずに生ごみを消滅させる技術はあります。その技術を使えば焼却炉の寿命を伸ばすことができるかも知れません。それこそ環境モデル都市として胸を張れることになるのではないのでしょうか？

小生は、数十カ所のバイオでのごみ処理施設を見て来ましたが、臭いも排水も出ない施設は殆どありませんでした。特にひどいのは大学の先生が指導した施設で高い技術料を取ってとんでもない施設を作らせて、臭い廃棄物を排出していました。

最後に行き着いたのが、石川県の「河北潟ゆうきの里」の山本専務に教えられた鹿児島施設でしたが、驚きました。

山本専務も元は石川県職員で廃棄物処理の専門家としての自負を持っており、時の知事から鹿児島に面白い技術があるので、見に行つて来て欲しいとの指示を受け、「また偉い奴が上から目線でくだらない技術を見ることを指示した」くらいにしか考えて居なかったようですが、行つて見て「天地がひっくり返る」ような驚きを覚え、その施設の人にお詫びしたそうです。

その後、知事の指示で石川県の能登半島の付け根の河北潟畔に「河北潟ゆうきの里」を設立、畜産廃棄物、し尿処理汚泥、野菜くずの処理をしているそうです。

同様の施設は、日本中で40カ所程度しかなく、専門家の目にも着きにくいと思います。近いところでは三重県の名張市にあります。

本気で取り組まれるなら、お手伝いします。

5月17日

◎生駒市ごみ減量市民会議の3年間の活動報告書は、活動によって何が分かったか？ごみ減量を推進するためには今後何をどう検討・実施しなければならないのか？など成果、反省、意見、提案を盛り込むことが必要と考えます。

1. ①～⑥を軸に活動を行ってきましたが、今後続けたとして「ごみ半減プラン」記載の目標は全く見えてこないと考えます。
2. 「ごみ半減プラン」は策定時から重量ベースでの討議であったが、今回容積（容量）について述べられているが混乱するだけである。
市民のごみ袋負担軽減の話で、30ℓを15ℓにできないとの話は15ℓ＋7ℓで処理できる。あるいはごみ袋を一定量無料として超える分を有料にすればインセンティブによる減量が期待できる。
3. 活動の柱は市民へのごみ減量啓発（自治会懇談会、チラシ・広報誌など広報活動による資源ごみ分別促進）、キエーロの普及、食品ロス削減（フードドライブ、エコクッキング）などであったが、結果として目標達成には大きく貢献しないと考えます。
4. 発生する燃えるごみの種別にターゲットを決めて有効なインセンティブを付加するかの検討も必要と考えます。

以上から、ごみを減量することは意義があるものの、いつになったら目標に到達するのかわからない状況であります。

ごみ半減を本気で考えるなら、生ごみ、剪定枝などの可燃ごみ処理を全国レベルで調査・研究し抜本的に見直す段階と考えます。お金、人材、時間等必要であり、また環境省、県、周辺市町村と情報収集、連繫することが大切と考えます。

令和元年5月17日

◎3年間の活動まとめ案の作成にあたり活動それ自体だけを纏める意図であればこれで良いかと思えます。しかし、会議の内容や成果、会議のあり方、市民への働き方、市民の理解度、3年間の反省点・改善点等々を把握したうえ課題や今後の取り組み方をまとめの中に提起して頂ければ、今回の貴重な経験を生かすことが出来ると考えます。